

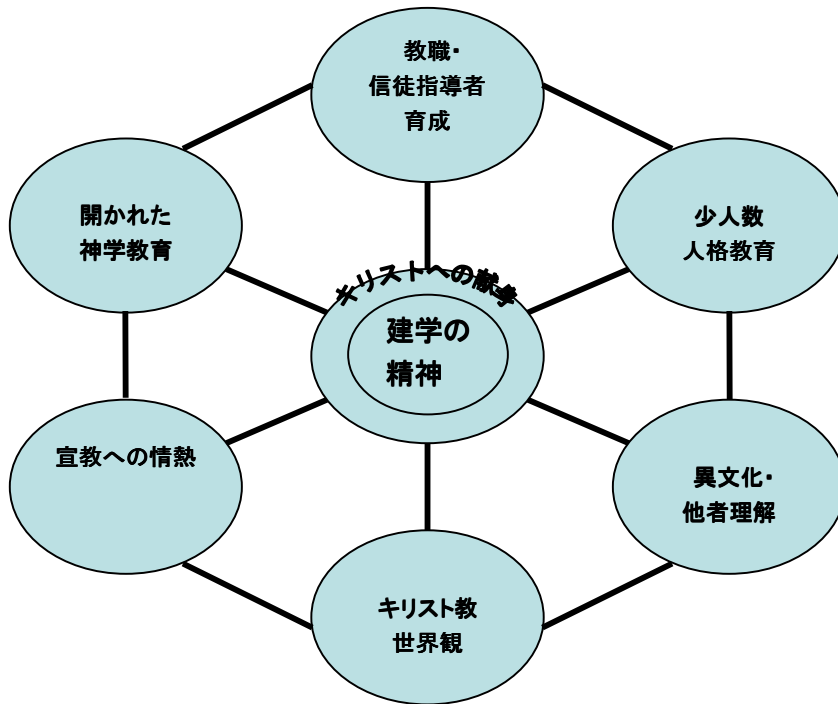
学園中長期計画

理事会

〈東京基督教大学の建学の精神〉

「プロテスタント福音主義信仰に立ち、教派を超えて21世紀の教会と社会に奉仕する世界宣教の働き人を育成するために、実践的な神学教育を施す。」

〈東京基督教大学の理念とミッション〉



① 「キリストへの献身」

神が与えておられる個々の学生の能力と賜物を引き出し、「キリストに仕える」という志を確固とし、全人格的陶冶を通して奉仕の態度を身につける。個々の学生が生きる意味と使命を見出し、具体的な奉仕につくために支援する。

② 「キリスト教世界観」

キリスト教世界観に基づく教養教育を重視する。また、すべての学究をキリストの主権のもとで精査し、批評的な視点を身につけ、神学をはじめすべての学究分野を通して真理を探究し、神を崇める。

③ 「宣教への情熱」

「キリストがすべて」をモットーに、学生、教職員、理事・監事・評議員すべてが福音的キリスト者で構成され、「世界的な視野をもった宣教の奉仕者」を育成して、「世界を千葉から」福音で満たすビジョンを実現する。

④ 「異文化・他者理解」

文化、国籍、性、年齢などの違いがもたらす「隔ての壁」を打ち壊すキリストの福音（神学）を味わい、和解と一致を体験するために、外国語習得に力を注ぎ、多様な国際交流プログラムを実施して、異文化・他者理解を深める。

⑤ 「教職・信徒指導者育成」

キリスト教世界観にもとづく教養と倫理観、隣人愛、社会に対する幅広い使命・貢献意識を備えた教会と社会のリーダーの育成に努める。特に、21世紀の世界が必要とする宣教、教育、福祉の専門的職業人教育を推進することに徹する。

⑥ 「少人数人格教育」

学生と教職員の人格的交流を豊かにする「少人数教育」と「キリスト者の自由をもって共に生きる」ことを体得する「寮教育」を行う。チャレンジおよびチャリティ精神をもって行動し、キリストの愛と義を常に判断の基準とできる福音的キリスト者の育成に努める。

⑦ 「開かれた神学教育」

教会の宣教と奉仕に寄与する教育、研究、情報、アイデアなどの提供を通じて世界大に広がる教会とそれを取り巻く社会に貢献する。また、地域社会に開かれた大学となり、地域文化に貢献する。

学校法人東京キリスト教学園 東京基督教大学
中期計画（2013－17年度）

基本計画

「キリストがすべてであり、すべてのうちにおられる」（コロサイ 3:11）をモットーとする本学は、「教会のかしら」であり、かつ「いっさいのものの上に立つかしら」（エペソ 1:22）であるキリストのご主権を教育の土台に据えるキリスト教大学である。本学は、このキリスト中心の福音主義神学に立って、キリスト教世界観、すなわちキリストのご主権を全世界に福音をもって知らせる働き人を 21 世紀のグローバルな教会と社会に送り出し、教会の世界宣教に貢献することを使命としている。

前中期計画（2008 -2012 年度）中は、継続的に上記の使命を果たす働き人の養成のために、定員充足と財政の健全化（帰属収支均衡）のために以下の抜本的な施策を行った。

2008 年度には、従来からある「国際キリスト教学専攻」に合わせ、教会や社会の高齢化にも資する介護福祉士養成の「キリスト教福祉学専攻」を設置することにより、「国際キリスト教学科」から「国際キリスト教福祉学科」に名称を変更した。2009 年度には、事務局組織の再編成を行った。2010 年度には、これまで本学「神学部」と東京基督神学校（専修学校）でそれぞれが担ってきた教会教職養成を、本学 3 年次編入から 2012 年度開設の本学大学院「神学研究科」までの教会教職課程に一本化した。これらを通して定員の充足と、財政の健全化に向けての経営の合理化を図った。また、2011 年度より「東京基督教大学『明日の世界宣教者育成』支援会」（TCU 支援会）を立上げ、全国および海外に地区支援会を設置して、同窓生および教会の人々からの祈りと経済的支援によって、学生の確保や寄付金の増額を図っている。

しかしながら、いわゆるリーマンショックに始まる世界的な経済状況の冷え込みによる資産運用収入の激減と、特色ある教育に対する「採択制特別補助金」制度が終了したことによって、約 1 億円の収入減があった。そのことにより、帰属収支均衡の達成はまだ難しい見通しであるが、資金収支は均衡可能どころまできている。

本中期計画では、グローバル化し少子高齢化する教会と社会に仕えるキリスト者を養成する本学の特徴（少人数教育、グローバル性を意識した教育、明確な教育目標）をさらに際立たせ、以下に掲げる七つの施策を通して、継続的な定員充足ならびに発展を図り、資金収支の均衡はもとより、安定した帰属収支の均衡達成を目指す。財政基盤の確立によって、本学の教育の「質の保証」を維持・発展させ、適切な「情報公開」を行って、教会と社会に貢献する。

- 1 大学・大学院における教育の充実を図る。特に、大学院神学研究科および国際キリスト教福祉学科並びに教会音楽専攻科の教育の充実を図る。
- 2 学生募集においては、チャーチスクールとの協定、海外短期留学の促進、諸教会への福祉専攻の周知徹底等をもって、入学定員の充足に繋げる。
- 3 付属研究所を通して、さらに、教会音楽や地域福祉等の分野で教会と社会に一層貢献する。
- 4 適切な定員管理を行い、アジア神学コース (ACTS-es) の自費学生増や教会教職専攻の定員増などにより、学部収容定員を現在の 160 名から 180 名とする。
- 5 TCU 地区支援会の働きを軌道に乗せ、同窓生および教会の人々との交流を充実させるとともに、学生確保と寄付金収入増 (企業等からの寄付も含む) のために連携を深める。
- 6 大学院神学研究科「博士課程」の設置を準備し、より高度な研究を促進する。また、神学研究科の英語によるプログラムおよび「通信教育課程」設置を検討する。
- 7 「教員免許課程」設置の可否を判定する。また、幼児教育や中等教育への可能性を探る。

[ビジョン・基本方針・行動目標]

I 学部

1 神学部

ビジョン：キリスト教世界観に基づく充実したリベラルアーツ教育と各専門分野（神学・国際キリスト教学・キリスト教福祉学・教会音楽等）の教育研究を通して、グローバル化する世界におけるキリストの派遣に応える市民を養成する。

基本方針：少子高齢化とグローバル化の中で教会と社会に仕え、未来を切り開く人材の養成のための教育プログラムを充実させるとともに、定員充足・定員増を図る。また充実したFD活動による教育研究の質的向上に努め、魅力あるキリスト教大学としての教育内容の充実と教育の質保証を図る。

行動目標：

- (1) キリスト教リベラルアーツ教育の再確認と教育への徹底
- (2) 教育課程・チャペル・寮教育を通しての総合的な人格教育・キャリア教育の実施
- (3) ユースミニストリー副専攻・教会音楽副専攻の充実
- (4) 国外大学への学生短期派遣のプログラムの充実
- (5) アジア神学コース自費学生の拡大と短期留学生(EAI)受け入れの拡充
- (6) 大学院教育を含むアジア神学コースの再検討
- (7) 各学科専攻の適切な入学定員管理
- (8) 三年次編入学定員の拡大等により、学部収容定員を160名から180名に拡大
- (9) 学務会議の働きの充実と学科・専攻教員会議の充実による統合的な教育・学生指導の実施
- (10) 各学科専攻研究科における次世代の教員の確保と研修
- (11) 教職免許課程（宗教、社会科など）、幼児・中等教育課程、通信教育課程等の検討

2 神学科

ビジョン：キリスト教世界観に基づく成熟した神学知識をもって複雑化する社会と教会に仕えるキリスト者を養成するために、聖書・神学の学びと実践とを統合した教育を行う。

基本方針：聖書と神学に関わる諸科目を提供し、広く教会と社会に仕える人材を養成する。

行動目標：

- (1) 段階的な履修課程の確立

- (2) 神学専攻と教会教職専攻の充実と強調
- (3) 学科教員会議等を通して授業内容の調整

3 国際キリスト教福祉学科

ビジョン：グローバル化し高齢化する社会において、キリスト教世界観に基づいて社会に奉仕する人格的に成熟した市民を養成する。

【国際キリスト教専攻】

ビジョン：キリスト教世界観に基づいてグローバルに活躍するキリスト者市民を養成する。

基本方針：語学教育（特に英語）にさらに強調点を置き、教育内容のいっそうの充実を図る。また、宣教団体や NGO などの外部団体との関係を拡大・強化する。

行動目標：

- (1) 言語科目・語学カリキュラム・実習の充実
- (2) ダブルディグリープログラムおよび短期留学への学生参加の促進
- (3) 学内留学生との交流の充実
- (4) 語学研修先となる大学の開拓
- (5) 専攻会議等の活発化
- (6) 進路指導を含む個々人の指導・ケアの積極化
- (7) 学生定員の充足
- (8) 関連諸団体（宣教団体・NGO 等）との交流の活発化による異文化実習等のインターンの受入団体や進路の開拓、教育プログラムの充実、宣教団体の活動への貢献

【キリスト教福祉学専攻】

ビジョン：キリスト教世界観に基づく奉仕の精神を身に付けた福祉のリーダーを養成する。

基本方針：高齢化する日本社会において福祉のリーダーとして仕え、教会のミニストリーの拡大にも参加できるキリスト者ケアワーカーを養成する。

行動目標：

- (1) 「医療的ケア」を加えた教育課程の定着と充実
- (2) TCU 福祉専攻独自の認証制度の創設
- (3) 近隣の実習先の確保と連携の強化
- (4) 徹底した学生募集と教会訪問による福祉学専攻の定員充足

(5) 日本人学生のための奨学金創設の検討・実施と外国人留学生の受け入れとその支援制度の検討・開拓

(6) 教会のミニストリーにおける福祉の重要性の諸教会への浸透

(7) 地域福祉への貢献と産学官の連携事業の開拓・推進

II 研究科・専攻科

1 大学院神学研究科

ビジョン：キリスト教世界観に基づいて教会と社会の未来を切り拓く、高度専門職業人としての教会教職者、および神学教育者・研究者を養成する。

基本方針：本学の教育理念と前身校の伝統を生かし、神学部における神学教育の上に立って、ダイナミックな教会教職者および神学教育者・研究者の養成を行うために、より高度な教育研究を充実させる。

行動目標：

- (1) 教会や社会との連携による実践的教育のための教会実習、各種インターン、セミナー等の実施
- (2) 学部の国際性と国際キリスト教福祉学科の成果の教会教職者養成への反映
- (3) 教員相互の連携による教育課程の充実
- (4) 定員の充足と教会教職者としての就職支援
- (5) 他の神学教育機関と教育・研究における交流の実施
- (6) 博士課程の設置をめざしての準備の推進

2 教会音楽専攻科

ビジョン：キリスト教世界観に基づいて、音楽を通して教会に仕える働き人を養成する。

基本方針：本学の理念を反映した教会音楽の充実した教育を行う。

行動目標：

- (1) 伝統的および今日的な教会音楽の教育の充実
- (2) 教会音楽アカデミーと連携しての学生募集の強化
- (3) 研究生制度など、継続教育の枠組みの検討

Ⅲ 寮教育

ビジョン：寮規約に基づいた敬虔と社会性を兼ね備えた人材を養成する。

基本方針：関係部署と連携して全人的人格教育を推進する。

行動目標：

- (1) キリスト者の自由を基調とした寮生活における、新たに定められた寮規約および寮運用規程に基づく自己責任の遂行と、人間関係を築き協力し合う社会人基礎力の育成
- (2) 寮のグローバル化に積極的に対応し、学部各専攻生、アジア神学コース生、教会教職課程生、大学院生それぞれの独自性を認めた、寮生活における共同作業の明確化と、互いに仕え合う姿勢の育成
- (3) 数値化できる寮生活評価の指標の策定
- (4) 寮生活の自己評価、寮運営委員会が行う寮運営の総括を有効に活用した、全人的人格教育の推進

Ⅳ 教育

ビジョン：グローバルな教会と社会に仕えるため、現在ある大学学部・専攻科および大学院研究科の教育課程の質保証と積極的な情報公開を行う。

基本方針：本学の特徴を際立たせるため、少人数教育・グローバル教育・明確な教育目標のもとで教育を行う。

行動目標：

- (1) 適切な履修指導および学習支援の充実
- (2) 複数部署での学生情報等の情報一元化
- (3) 教育研究支援体制の整備（技術職員・TA・RAの配置、学生ポートフォリオの作成など）
- (4) デジタルコンテンツに関する企画・作成・販売等を行うための組織の設置
- (5) 教育コンテンツのデジタル化（TCU支援会や公開講座と連携）
- (6) 社会貢献を可能にするプラットフォームの構築（通信教育、収益事業、単位の提供、デジタルコンテンツ販売、無償コンテンツ）

V 学生支援

ビジョン：学生の体と心、学びと生活のトータルな支援の充実を図る。

基本方針：関係部署との連携を密にしたきめ細かな支援体制を維持する。

行動目標：

1 生活支援

(1) 教務部、学生部、学生相談室、キャリア支援室、担任間の連携を強化した、学生の学びと生活をトータルにサポートする体制の確立

(2) 学内の奨学金制度の充実と学外の奨学金制度の活用による、学生の必要に届く経済的支援の充実

(3) 校医の定期的な来学による健康相談、および寮主事・教職員による日常的支援の継続

(4) 心理の専任教員・非常勤カウンセラーを配置した学生相談室の継続と、定期的な学生相談の実施

(5) 寮主事、教員間の学生情報の共有、および教職員協働による精神面支援の体制整備

(6) ハラスメント関連事項の見直しによる、より実効性のある体制の整備。教職員の意識向上と研鑽の推進

(7) 障がいをもつ学生の必要に合わせた学習・生活サポートの実施

2 キャリア支援

(1) 進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施

① 早期からのキャリア形成支援に関わる正課科目の実施、および正課科目外の就職支援に関わる講座の充実を図り、本学のディプロマポリシーに沿った社会的・職業的自立を目指す。

② 学業から社会への円滑な移行ができるよう、進路目的に沿った履修指導や奨学援護指導を行う。

(2) キャリア支援に関する組織体制の整備

① 多様化した学生の進路相談に対応するため、キャリア支援室員のスキル向上を図る。また、他部署間と連携を密にし、学生の諸問題を把握できるよう情報共有を行いながら一元的かつ多面的に学生を支援する組織体制を構築する。

② 産業界との連携を図り、学生が将来のキャリアに関連した就業体験を行うことができる組織体制を整備する。具体的には、インターンシップ等の受入先企業との連携を強化することにより、学生の社会人基礎力を向上させることを目指す。

3 学習支援

(1) 成績不振者（GPA1.8未満）を対象とした学生チュータリング（授業外の個別補習クラス）の定着と継続

VI 教育研究環境

ビジョン：教育研究環境の充実を図り、効率的な運用を行う。

基本方針：快適なキャンパスライフ・研究環境の充実を図る。

行動目標：

- (1) 教職員および学生の情報環境の充実と IT 関係のセキュリティ対策の強化
- (2) 障がいをもつ学生が快適なキャンパスライフを送るための、ハード・ソフト面の整備を継続的に検討
- (3) 施設・設備の計画的営繕の実施
- (4) 図書館の充実と効果的な提供運用
 - ① 中期計画に基づく教育研究活動が必要とする学術情報の収集保存と利用提供、その活動支援
 - ② 学術情報の電子化への対応。電子情報の充実、利便性向上
 - ③ 学術情報の国際的受信・発信の推進
 - ④ 福音派図書館としての機能強化、社会貢献
 - ⑤ 快適なアカデミック・ラーニング環境の充実、図書館の質の向上および充実、学習支援の充実

VII FD 活動

ビジョン：教育研究・大学行政における質の向上を図る。

基本方針：教員の教育研究および大学行政の総合的スキル向上のための FD 活動を実施する。

行動目標：

- (1) 教育改善のための PDCA サイクルの充実（学生による授業評価と専任教員のアカデミック・ポートフォリオ）
- (2) 教育改善・研究推進・大学行政のための講演会、ワークショップ、ファカルティーフォーラム等の実施
- (3) 新任教員研修の体制とプログラムの構築
- (4) 学園研修生の発掘と育成

VIII 学術研究

ビジョン：グローバルな教会と社会の必要に応える高度な学術研究を推進する。

基本方針：大学院開設にともなう研究の高度化、および、教会・社会・諸外国と連携した研究活動を行う。

行動目標：

1 学部・大学院

- (1) 各専攻の諸分野における研究活動の充実
- (2) 教員の研究支援の充実
- (3) 外部資金獲得の推進
- (4) 大学院設置を受けての神学研究（共同研究を含む）の充実と発展
- (5) 神学研究科生研究支援と連動した研究活動の活性化
- (6) 大学院博士課程設置を目指しての研究の充実

2 附属研究所

- (1) 教会教職者養成理念の深化、および教会音楽の普及・発展に資する研究活動の推進
- (2) キリスト教各教団・教派の宣教研究機関との協力推進
- (3) 諸研究機関、市民団体等と連携した研究、およびその成果の還元
- (4) 公共福祉学の構築と、それに基づく地域福祉のための住民および産学官との連携
- (5) 神学、公共福祉学を柱とする国際研究の実施

IX 学生募集

ビジョン：定員充足から定員増へ。

基本方針：志願者増員。

行動目標：

- (1) 国際キリスト教学専攻、キリスト教福祉学専攻の学生募集活動・広報へのてこ入れ
- (2) 教職員による教会・キャンプ等訪問
- (3) アジア神学コース（ACTS-es）の自費学生数の拡大
- (4) 広報と連携し、メディア媒体を通してのアピール
- (5) オープンキャンパス、体験入学の実施

- (6) キリスト教主義高校の指定校数の拡大
- (7) チャーチスクールとの協定校数の拡大および協力体制構築、模擬授業実施、チャーチスクール用教科書編纂
- (8) その他出願者を増やすための企画立案と実施

X 広報・支援会

ビジョン：ステークホルダー（諸教会、在学生保護者、卒業生、支援者、受験生、地域、官公庁など）との良好なコミュニケーションによる信頼関係構築と TCU 支援を促進する。

基本方針：

大学の理念・特長・取組の発信と、双方向コミュニケーションを促進し、支援者および入学志願者を継続的に安定して確保するための広報および支援会活動を実施する。

行動目標：

1 広報

- (1) ホームページの管理運営（入試情報、学生募集、教育情報の公表など）
- (2) 大学案内カタログ、大学報等の広報ツールの制作・配布
- (3) ソーシャルネットワークによる双方向コミュニケーションの促進
- (4) キリスト教メディア、一般メディアとの関係構築
- (5) 国際広報の推進
- (6) 危機管理の際の広報体制の準備

2 支援会

- (1) 支援者数の増加と新たな地区支援会の設置
- (2) 学園デー、TCU の集いの実施による地区支援会活動の充実
- (3) 同窓会と教会との緊密なコミュニケーションによる支援拡大
- (4) 企業・大口支援者の開拓

X I 社会貢献

ビジョン：学外に開かれた神学研究・教育による社会的貢献を行う。

基本方針：諸教会のニーズに応えつつ、その将来を切り拓くべく教会との協力を強化し、福音のユニークさをもって現代社会と地域に貢献する。

行動目標：

- (1) エクステンション、教会教職者の継続教育プログラム、神学校図書館との連携協力の継続と充実
- (2) 音楽コンサート、地域史研究、異文化交流に加え、教育・福祉・文化に関する公開講座の実施
- (3) 地元自治体、地域社会との連携による地域福祉の向上への寄与
- (4) オンラインによる生涯教育の検討

X II 組織・人事

ビジョン：適正な人員配置による組織の活性化と効率化を図る。

基本方針：

少人数で最大限のパフォーマンスを発揮できる、柔軟で責任ある組織を確立する。また構成員のやる気を引き出し、組織の目的を達成するにふさわしい人事制度を実現する。

行動目標：

- (1) 組織の目的を効果的に達成し、学生の満足度向上に資する、指示命令系統の明確な責任感ある組織の確立、および部制度の継続的な検証
- (2) 本学にふさわしい業績評価制度の導入による教員人事の活性化。大学の教育・研究を担う教員の継続的な育成
- (3) 本学にふさわしい資格制度・人事考課制度の確立による職員人事の活性化。大学経営の将来を担いうる中間管理職の育成。SDの推進

XIII 財務

ビジョン：財務基盤の確立を図る。

基本方針：収入の確保、支出の見直し、帰属収支の均衡。

行動目標：

(1) 収入の確保

- ① 学生定員の確保と学部収容定員増の検討・実施
- ② 支援会の活動の強化等による寄付金目標額の達成
- ③ 国庫補助金、科学研究費を初めとする外部資金の獲得
- ④ 通信教育課程設置の検討と、公開講座等の充実
- ⑤ 収益事業の検討
- ⑥ 所有不動産の、売却を含めた有効活用の検討

(2) 支出の見直し

- ① 人件費比率を 60%以内に
- ② 事業の目的・内容・重要度・緊急性・優先順位の精査
- ③ 学園構成員の更なる意識改革

(3) 帰属収支の均衡

- ① 資金収支均衡の維持と安定した帰属収支均衡への取り組み

XIV 自己点検・自己評価

ビジョン：建学の精神に基づいて自己点検評価と改善を継続する。

基本方針：自己点検評価に基づいた PDCA サイクルを実施する。

行動目標：

- (1) 自己点検・自己評価報告書の作成と第三者評価の受審
- (2) 前項を通じての改善への取り組み
- (3) 自己点検・自己評価委員会を中心とした PDCA サイクルの検証と改善

(2012 年 (平成 24 年) 5 月 22 日理事会決定)